1 知っておきたいこと

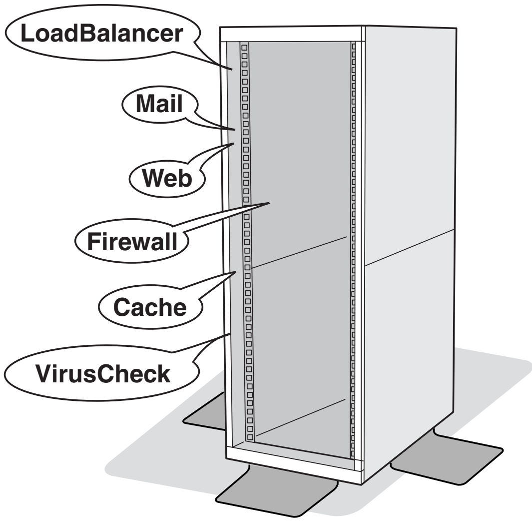
本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。

インターネットアプライアンスサーバについて

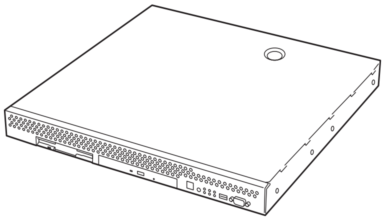
お買い求めになられたインターネットアプライアンスサーバシリーズ「Express5800/VirusCheckServer」について説明します。

インターネットアプライアンスサーバとは

「オール・イン・ワン」から「ビルドアップ」へ。
インターネットビジネスやデータセンタサーバ化社会において大量のデータを高速に処理するために開発されたのが、「インターネットアプライアンスサーバ」です。
お使いになる環境や用途に応じて必要となる機能を備えたサーバを追加することでシステムをビルドアップすることができます。



1台のラックにそれぞれの機能を持つサーバを搭載（クラスタ構成も可能）



インターネットアプライアンスサーバの主な特長と利点は次のとおりです。

- **省スペース**

  すべてのモデルに厚さ1U（ユニット）のコンパクトな筐体を採用。

- **運用性**

  運用を容易にする管理ツール。

- **クイックスタート**

  Webベースの専用設定ツールを標準装備。短時間（約5分）で初期設定を完了します。

- **高い信頼性**

  単体ユニットに閉じた動作環境で単機能を動作させるために、障害発生の影響は個々のユニットに抑えられます。また、絞り込まれた機能のみが動作するため、万一の障害発生時の原因の絞り込みが容易です。

- **高い拡張性**

  専用サーバとして、機能ごとに単体ユニットで動作させているために用途に応じた機能拡張が容易に可能です。また、複数ユニットでクラスタ構成にすることによりシステムを拡張していくことができます。

- **コストパフォーマンスの向上**

  専用サーバに最適なチューニングが行えるため、単機能の動作において高い性能を確保できます。また、単機能動作に必要な環境のみ提供できるため、余剰スペックがなく低コスト化が実現されます。

- **管理の容易性**

  環境設定や運用時における管理情報など、単機能が動作するために必要な設定のみです。そのため、導入・運用管理が容易に行えます。

インターネットアプライアンスサーバファミリーには、目的や用途に応じて次のモデルが用意されています。

- **VirusCheckServer**

  インターネット経由で受け渡しされるファイル(電子メール添付のファイルやWeb/FTPでダウンロードしたファイル)から各種ウイルスを検出/除去し、オフィスへのウイルス侵入、外部へのウイルス流出を防ぐことを目的としたサーバです。

- **MailWebServer**

  WebやFTPのサービスやインターネットを利用した電子メールの送受信や制御などインターネットサーバとしての必要となるサービスを提供するサーバです。

- **CacheServer**

  Webアクセス要求におけるプロキシでのヒット率の向上(Forward Proxy)を目的としたサーバです。

- **FirewallServer**

  インターネットと接続した企業ネットワークを外部からの不正なアクセスから守るファイアウォール専門のサーバです。

- **LoadBalancer**

  複数台のWebサーバへのトラフィック(要求)を整理し、負荷分散によるレスポンスの向上を目的としたサーバです。

特長と機能

VirusCheckServerの特徴やVirusCheckServerが提供する機能について説明します。

VirusCheckServerは、インターネットゲートウェイ上でウイルスを検出、駆除して、企業LANへのウイルスの侵入、インターネットへのウイルス流出を防止することを目的として設計されたウイルス対策・アプライアンス製品です。
ウイルス対策エンジンとして、トレンドマイクロ社のInterScan VirusWallを採用しました。
また、本製品は必要なソフトウェアがすべてプリインストールされているため短期間で導入／運用が可能です。InterScan VirusWallのStandardエディションの全機能がプリインストールされています。
InterScan VirusWallは、E-Mail VirusWall、Web VirusWall、FTP VirusWallの機能によりSMTP、HTTP、FTPの3種類のトラフィックを監視可能です。

- **E-Mail VirusWall**

  E-Mail VirusWallは、インバウンド、アウトバウンド両方のE-Mailを監視して、マクロウイルスを含むウイルスを検索します。またE-Mail VirusWallではアンチリレイ機能を備えています。

- **Web VirusWall**

  Web VirusWallは、すべてのHTTPトラフィックを監視し、ウイルスや不正なJavaアプレット、ActiveXコントロールをチェックします。またWeb VirusWallでは、Javaに関する、企業全体での標準を提供します。

- **FTP VirusWall**

  FTP VirusWallは、FTPによるファイル転送を介して企業ネットワークに侵入しようとするウイルスを防止します。またFTP VirusWallを使用して、特定サーバのみをウイルスから防御することも可能です。

InterScan VirusWallでは、様々なネットワークトポロジや設定をサポートしています。3種類のVirusWallすべてにおいて、柔軟なユーザ設定オプションが提供されており、ウイルス検出時の通知、ウイルスパターンの更新などの日常的なタスクを、自動的に実行するように予約することができます。
またシステム管理者は、ウイルス検索の対象となるファイルの種類、ウイルス検出時の処理（駆除、削除、隔離、放置）、その他のプログラムの詳細な動作を設定することができます。
InterScan VirusWallでは、トレンドマイクロ社の32ビットマルチスレッド検索エンジンとパターンマッチングの手法を用いてウイルスを検出します。またInterScan VirusWallでは、既知のウイルスを検出するだけでなく、ポリモフィック型、ミューテーション型のウイルスも検出し、ネットワークへの感染を防止します。
さらに進んだウイルス対策を提供するために、InterScan VirusWallではトレンドマイクロ社のマクロウイルス検索エンジンMacroTrapを採用し、既知のマクロウイルスとその変種、亜種の両方を検出、駆除します。

InterScan VirusWallの仕組み

InterScanでは、企業ネットワークとインターネット間のすべてのSMTP、HTTP、FTPトラフィックを監視します。検索対象に設定されているファイルの種類(「.zip」、「.exe」、「.doc」など)を検出すると、InterScanでは対象となるファイルを一時的な場所にコピーし、ウイルス検索を実行します。ファイルがウイルスに感染していなければ、コピーを削除して、オリジナルのファイルを宛先に配信します。ウイルスを検出した場合は、設定に従って、次のような処理を実行します。

- ウイルスを駆除せずに、感染ファイルを「放置」します。感染ファイルは、任意の通知メッセージを添付して配信されます。
- ウイルスを駆除せずに、感染ファイルを「隔離」します。ファイルは配信されません。
- 感染ファイルを「削除」します。ファイルは配信されません。
- 感染ファイルのウイルスを「駆除」し、通常通り配信されるよう、元のサーバにファイルを送信します。

● **通知**

InterScan VirusWallでは、次の方法で通知を実行します。

- E-Mail VirusWallでは、オリジナルのメッセージに警告メッセージを挿入します。
- Web VirusWallでは、要求元のブラウザにHTML形式の通知を送信します。
- FTP VirusWallでは、要求元のクライアントにASCIIテキストの警告メッセージを送信します。

通知は自動的に実行され、E-Mail VirusWallの場合には、システム管理者、発信者、指定されている受信者に対して通知を実行できます。ウイルスが検出されなかった場合に、対象となるE-Mailに対してウイルス検索を実行し、ウイルスに感染していなかったことを伝えるメッセージを添付することもできます。

● InterScan VirusWallでウイルスを検出する仕組み

VirusWallは、「パターンマッチング」という手法を用いてウイルスを検出します。パターンマッチングでは、大規模なウイルスパターンデータベースに照会して、既知のウイルスシグネチャ(ウイルス識別コード)を識別します。この際、ウイルスに感染していると思われるファイルからウイルスコード特有の文字列を抽出し、トレンドマイクロ社のデータベースにある数万のウイルスシグネチャと比較します。

ポリモフィック型/ミューテーション型ウイルスに関しては、InterScan VirusWallの検索エンジンで、ウイルスに感染していると思われるファイルを、一時的な環境内で実行します。ファイルが実行されると、ファイル内に暗号化されているウイルス識別コードが復号化されます。InterScan VirusWallでは、新たに復号化されたコードを含むファイル全体を検索して、ミューテーションウイルスのコード文字列を識別し、駆除、削除、移動(隔離)、放置など、ユーザがあらかじめ指定した処理を実行します。

ウイルスパターンファイルを最新に保つことが大変重要です。ある統計によると、1年間に発生するウイルスの数は10000件以上におよび、毎日数種類のウイルスが誕生している計算になります。トレンドマイクロ社では、自動的な更新をサポートして、簡単にウイルスパターンファイルを更新できるようにしています。

MacroTrap

マクロウイルスは、最も新しいタイプのウイルスの1つであり、また短期間で蔓延するウイルスです。マクロウイルスには、特定のオペレーティングシステムに限定されないという特徴があります。マクロウイルスはアプリケーションに依存するため、DOS、Windows、Macintosh、さらにはOS/2の垣根を越えて蔓延します。また、インターネットの普及によりウイルスがE-Mailによって一瞬にして世界中に広まることも考えられます。さらにマクロコードの機能の向上もあいまって、マクロウイルスは現在最も感染力の強いウイルスであると考えられます。このようなマクロウイルスに対抗するためにトレンドマイクロ社では、高性能なMacroTrap技術を開発いたしました。
MacroTrapにより、より確実にネットワークを保護できるようになります。

● MacroTrapの仕組み

MacroTrapでは、文書に関連するすべてのマクロコードに対して、ルールベース方式の検索を実行します。通常マクロウイルスのコードは、表に見えないテンプレート（たとえば、Microsoft Wordであれば、「.DOT」ファイル）の一部に組み込まれて、文書と一緒に移動します。トレンドマイクロ社のMacroTrapではこのテンプレートをチェックして、たとえば、テンプレートを部分的に他のテンプレートにコピーする命令（複製）や、危険なコマンドを実行する命令（破壊）など、ウイルスに類似した動作を実行する命令を探すことで、まだ知られていない亜種のマクロウイルスをチェックします。

● 圧縮ファイル

VirusWallでは、圧縮ファイルを解凍し、各VirusWallのScan Filesオプションで指定されている検索条件に従って、その内容をチェックします。

VirusWallでは、最大20階層まで圧縮されているファイルを再帰的に検索します。つまりVirusWallでは、アーカイブにPK-ZIP、LZEXE、PK-LITE、Microsoft Compressを使って圧縮された「.cab」ファイルが入っている場合、圧縮ファイルが存在しなくなるか（その時点では、すべての圧縮ファイル内のファイルが検索されています）、上限値の20階層に達するまで、個々の階層を解凍します。

● MIMEエンコーディング

19種類の圧縮タイプ、最大20階層まで圧縮されているファイルのサポートに加えて、E-Mail VirusWallでは、UUencoding、Base64、quated-printable、BinHexでエンコードされたファイルをデコードすることができます。

● マクロ検索

マクロ検索によって、ウイルスに感染しているかどうかに関係なく、マクロを含むすべての添付ファイルを隔離するオプションや、マクロを削除して添付ファイルを送信するオプションをご利用いただけます。この機能は、ウイルスアウトブレーク発生時に特に効果を発揮します。

InterScan VirusWallのユーザー登録

InterScan VirusWallのユーザー登録は大変重要です。
ユーザ登録することによって、次のサービスを受けることができます。

- 1年間のウイルスパターンファイル、検索エンジンの無料更新
- 1年間の無料サポートサービス
- 製品の最新情報の提供

上記サービスは弊社およびトレンドマイクロ社により提供されます。
ソフトウェアを登録する際には、インターネットによるオンライン登録だけでなく、必ずFAX登録用紙を使用して登録およびサポート申し込みを行う必要があります。

ヒント

お客様の製品シリアル番号については、基本ライセンス製品パッケージに同梱しておりますので、ご参照ください。

添付のディスクについて

本装置にはセットアップや保守・管理の際に使用するCD-ROMやフロッピーディスクが添付されています。ここでは、これらのディスクに格納されているソフトウェアやディスクの用途について説明します。

重要 **添付のフロッピーディスクやCD-ROMは、システムのセットアップが完了した後でも、システムの再セットアップやシステムの保守・管理の際に使用する場合があります。なくさないように大切に保存しておいてください。**

- **バックアップCD-ROM**

  システムのバックアップとなるCD-ROMです。

  再セットアップの際は、このCD-ROMと添付の「バックアップCD-ROM用インストールディスク」を使用してインストールします。詳細は55ページを参照してください。

  バックアップCD-ROMには、システムのセットアップに必要なソフトウェアや各種モジュールの他にシステムの管理・監視をするための専用のアプリケーション「ESMPRO」が格納されています。システムに備わったRAS機能を十分に発揮させるためにぜひお使いください。次ページを参照してください。

- **保守・管理ツールCD-ROM**

  本体およびシステムの保守・管理の際に使用するCD-ROMです。

  このCD-ROMには次のようなソフトウェアが格納されています。

  － 保守・管理ツール

  再セットアップの際に装置の維持・管理を行うためのユーティリティを格納するためのパーティション（保守パーティション）を作成したり、システム診断やオフライン保守ユーティリティなどの保守ツールを起動したりするときに使用します。詳細は82ページを参照してください。

  － MWA

  システムが立ち上がらないようなときに、リモート(LAN接続またはRS-232Cケーブルによるダイレクト接続)で管理コンピュータから本装置を管理する時に使用するソフトウェアです。詳細は92ページを参照してください。

- **初期導入設定用ディスク（フロッピーディスク）**

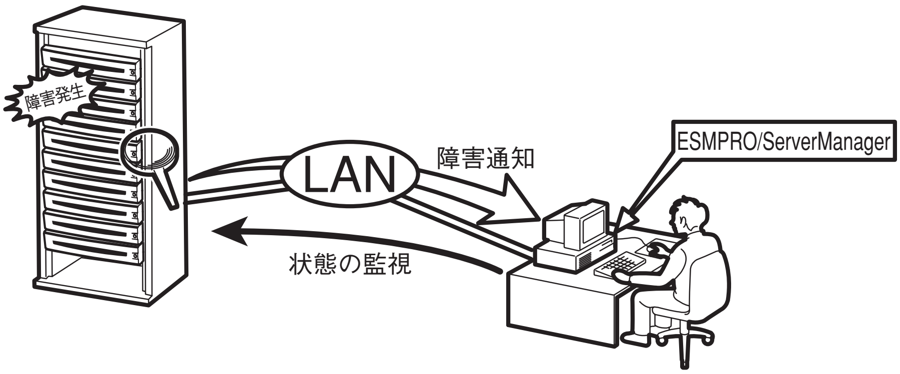
  初期導入時の設定情報を書き込みます。設定情報の作成や変更をする「初期導入設定ツール」も含まれています。

- **バックアップCD-ROM用インストールディスク（フロッピーディスク）**

  システムの再インストールの際に使用します。

ESMPRO

「ESMPRO®」は、NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェアです。
システムの稼動状況や障害の監視をリモートで行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。



本装置を運用する際は、ESMPROを利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。
添付のCD-ROM「バックアップCD-ROM」にはシステムを監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」とESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムを管理するためのソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」が格納されています。
ESMPRO/ServerAgentはあらかじめシステムの一部として装置に組み込まれています。また、再インストールの際にも自動的にインストールされます。
ESMPRO/ServerManagerはネットワーク上のコンピュータにインストールします。
ESMPRO/ServerAgentとESMPRO/ServerManagerの詳細は、5章を参照してください。

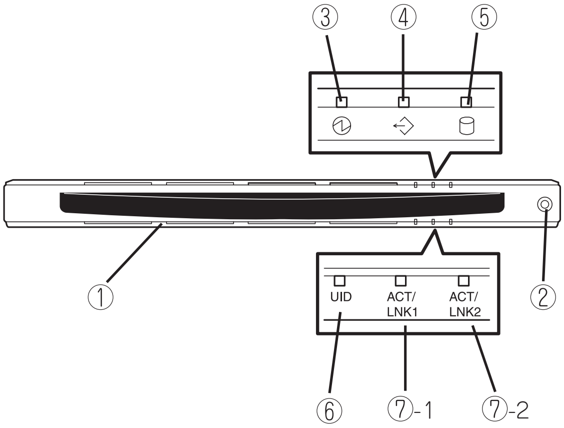
ESMPROを使ってさらに高度なクライアントサーバシステムを構築する場合は別売の「ESMPROシステム構築ガイドVer.2.0(UL9005-201)」を参照してください。この説明書はESMPRO製品を活用するためのガイドです。

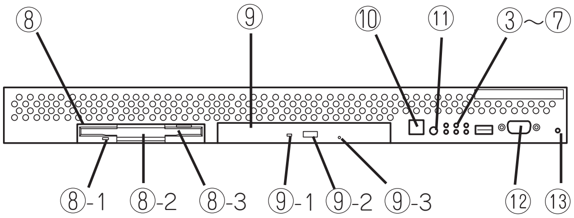
また、ESMPROには、サーバ管理用ソフトウェアをはじめ、ネットワーク管理や電源管理、ストレージ管理を行う専用のアプリケーション(ESMPROプロダクト)が用意されています。
ESMPROプロダクトについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

各部の名称と機能

本体の各部の名称を次に示します。ここでは、本装置で使用するコネクタやランプのみ説明します。

本体前面





<フロントベゼルを取り外した状態>

① **フロントベゼル**

日常の運用時に前面のデバイス類を保護するカバー。添付のセキュリティキーでロックすることができる(→14ページ)。

② **キースロット**

フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差し口。

③ **POWERランプ(緑色)**

電源をONにすると緑色に点灯する(→12ページ)。

④ **STATUSランプ(緑色/アンバー色)**

本体の状態を表示するランプ。正常に動作している間は緑色に点灯する。異常が起きると緑色に点滅、またはアンバー色に点灯/点滅する(→12ページ)。

⑤ **DISK ACCESSランプ(緑色)**

取り付けているディスクが動作しているときに点灯する(→12ページ)。

⑥ **UID(ユニットID)ランプ(黄色)**

装置を識別するためのランプ(→12ページ)。ランプ点灯中をメンテナンス中とした場合、本体前面/背面からメンテナンス中の装置を見分けることができる。

⑦ **ACT/LINKランプ(緑色)**

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスとリンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態にあるときに緑色に点滅する(→13ページ)。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1(標準LAN)用のランプで、「2」がLANポート2(拡張LAN)用のランプを示す。

⑧ **3.5インチフロッピーディスクドライブ**

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み/読み出しを行う装置(→18ページ)。

⑧-1　ディスクアクセスランプ

⑧-2　ディスク挿入口

⑧-3　イジェクトボタン

⑨ **CD-ROMドライブ**

CD-ROMの読み出しを行う装置(→20ページ)。

⑨-1　ディスクアクセスランプ

⑨-2　CDトレーイジェクトボタン

⑨-3　エマージェンシーホール

⑩ **POWERスイッチ**

電源をON/OFFするスイッチ(→15ページ)。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すと電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする。

⑪ **UID(ユニットID)スイッチ**

本体前面/背面にあるUIDランプをON/OFFするスイッチ。スイッチを一度押すと、UIDランプが点灯し、もう一度押すと消灯する(→17ページ)。

⑫ **シリアルポート2(COM2)コネクタ**

管理コンピュータと接続するためのコネクタ。通常は使用しない。

⑬ **DUMPスイッチ**

押すとメモリダンプを実行する。通常は使用しない。

本体背面

① **シリアルポート1（COM1）コネクタ**

シリアルインターフェースを持つ装置と接続する(→38ページ)

② **LANコネクタ**

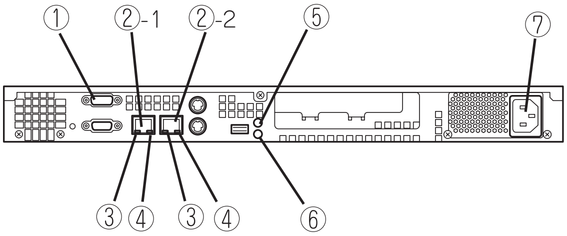
100BASE-TX/10BASE-Tと接続するコネクタ（→38ページ）。LAN上のネットワークシステムと接続する。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1（標準LAN）で、「2」がLANポート2（拡張LAN）を示す。

③ **ACT/LINKランプ（緑色）**

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスとリンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態にあるときに緑色に点滅する（→13ページ）。

④ **100TXランプ（黄色）**

ネットワークポートが100Mbpsで動作しているときに黄色に点灯する。10Mbpsで動作しているときは消灯する（→13ページ）。



⑤ **POWERランプ（緑色）**

電源をONにすると緑色に点灯する（→12ページ）。

⑥ **UID（ユニットID）ランプ（黄色）**

本体を識別するためのランプ（→12ページ）。ランプ点灯中をメンテナンス中とした場合、本体前面/背面からメンテナンス中の装置を見分けることができる。

⑦ **電源コネクタ**

添付の電源コードを接続する（→38ページ）。

本体内部

① ハードディスクベイ（ハードディスクを搭載済み）

② 冷却ファン（丸数字の後の数字はファン番号を示す）

③ リチウム電池

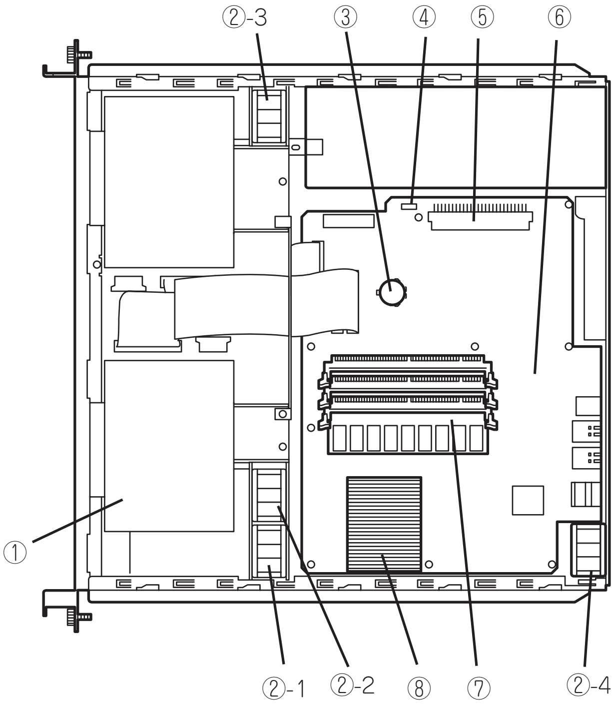
④ コンフィグレーションジャンパ

⑤ PCIボードスロット（未使用）

⑥ マザーボード

⑦ DIMM（右図の下からDIMM #1→DIMM #2→DIMM #3、Slot #1に1枚標準装備）

⑧ プロセッサ（CPU）



ランプ

本体前面には8つ、背面には6つのランプがあります。ランプの表示とその意味は次のとおりです。

POWERランプ()

本体前面と背面に各1個あります。電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。

STATUSランプ()

本体前面にあります。本体が正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや、緑色に点滅、またはアンバー色に点灯/点滅しているときは本体になんらかの異常が起きたことを示します。
異常が起きたときは保守サービス会社に連絡してください。

ヒント

- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティをインストールしておくとエラーログを参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、Management Consoleからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源切断をするか（23ページ参照）、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

DISK ACCESSランプ()

本体前面にあります。DISK ACCESSランプは本体内蔵のハードディスクやCD-ROMドライブにアクセスしているときに点灯します。

UID(ユニットID)ランプ

本体前面と背面に各1個あります。本体前面にあるUIDスイッチを押すと点灯しもう一度押すと消灯します。複数台の装置がラックに搭載された中から特定の装置を識別したいときなどに使用することができます。特にラック背面からのメンテナンスのときは、このランプを点灯させておくと、対象装置を間違えずに作業することができます。

ACT/LINKランプ（ACT/LNK1, ACT/LNK2）

本体前面と背面（LANコネクタ部分）に各2個あります。本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている場合に点灯します（LINK）。ネットワークポートが送受信を行っているときに点滅します（ACT）。LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルやケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク（LAN）コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

アクセスランプ

本体前面にあるフロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

100TXランプ

本体背面のLANコネクタ部分に各1個あります。本体標準装備のネットワークポートの通信モードが100BASE-TXか、10BASE-Tのどちらのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。点灯しているときは、100BASE-TXで動作されていることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

運用時の操作

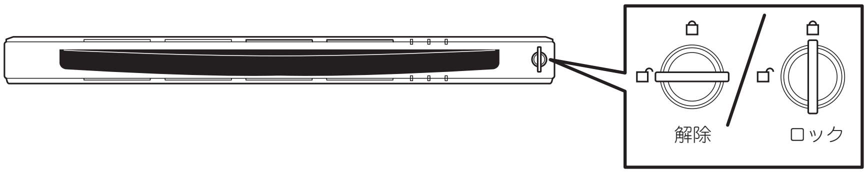
電源のON/OFFの方法など日常の運用で知っておいていただきたい操作手順について説明します。

フロントベゼル　～取り付け・取り外し～

ラックに搭載した本体の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブを取り扱うときはフロントベゼルを取り外します(卓上に設置した場合は、フロントベゼルを取り付けることはできません)。

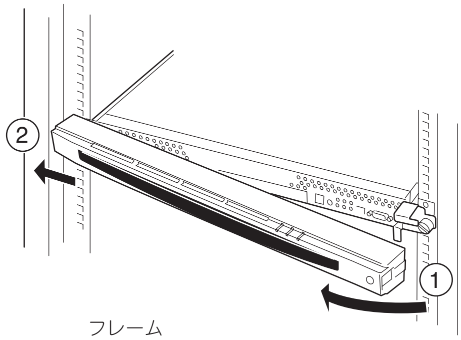
重要 **フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。**

1. キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーをフロントベゼル側に軽く押しながら回してロックを解除する。

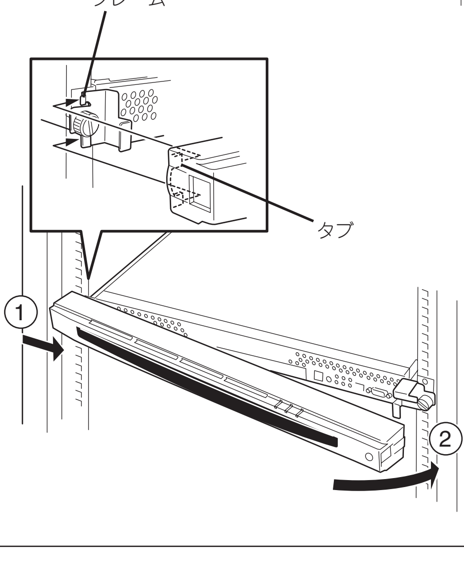


2. フロントベゼルの右端を軽く持って手前に引く。

3. フロントベゼルを左に少しスライドさせてタブをフレームから外して本体から取り外す。



フロントベゼルを取り付けるときは、フロントベゼルの左端のタブを本体のフレームに引っかけるようにしながら取り付けます。取り付けた後はセキュリティのためにもキーでロックしてください。



POWERスイッチ　～電源のON/OFF～

電源をONにする場合は、本体前面にあるPOWERスイッチを押します。
次の順序で電源をONにします。

1. ラックに搭載している場合は、フロントベゼルを取り外す。

2. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしていないことを確認する。

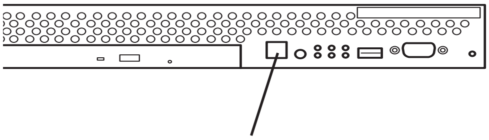
3. 本装置に接続している周辺機器の電源をONにする。

チェック

無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

4. 本体前面にあるPOWERスイッチを押す。

本体前面および背面にあるPOWERランプが緑色に点灯します。電源をONにしてからしばらくの間、自己診断プログラム(POST)を実行し、本体の診断が行われます。POSTを完了すると、システムが起動します。ネットワーク上のコンピュータからWebブラウザを使って、システムの稼働状態を見ることができます。詳しくは、3章を参照してください。



ヒント

電源コードを接続するとハードウェアの初期診断を始めます(約5秒間)。初期診断中はPOWERスイッチは機能しません。電源コードの接続直後は、約5秒ほど時間をおいてからPOWERスイッチを押してください。

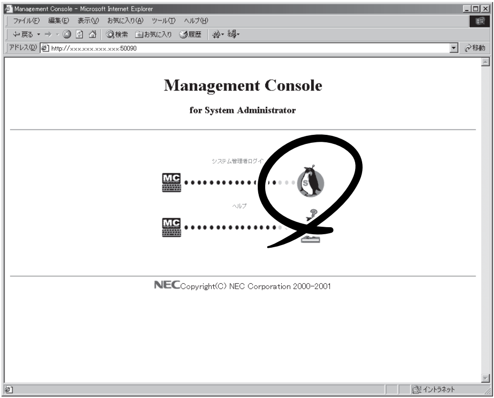
電源のOFFは、次の順序で行います(本体前面にあるPOWERスイッチを押してもシャットダウン処理後に電源はOFFになります)。

1. クライアントマシンでWebブラウザを起動する。
2. [アドレス](または[場所]など)に「http://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50090/」を指定する。

   [Management Console]の画面が表示されます。

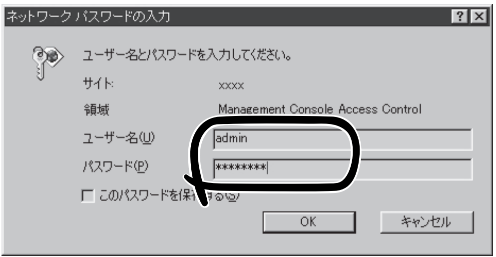
3. [管理者用]をクリックする。

   ユーザー名とパスワードの入力を要求されます。

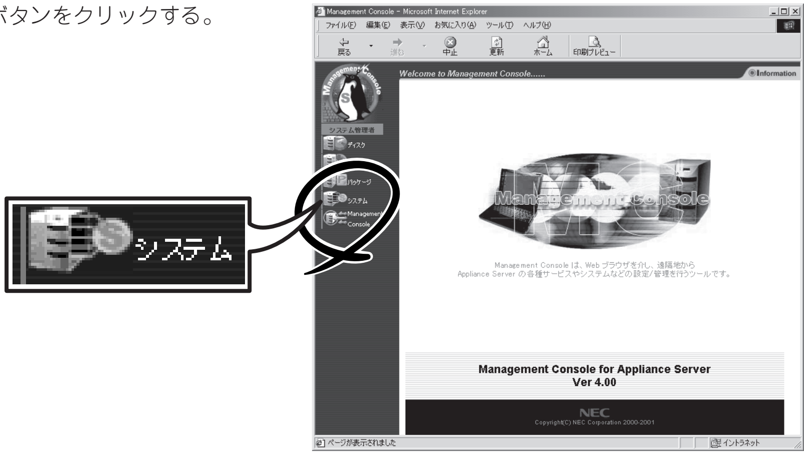


4. [ユーザー名]は、「admin」、パスワードは2章の「初期導入設定用ディスクの作成」で設定したパスワードを入力する。

   [トップ]シートが表示されます。



5. [システム]ボタンをクリックする。



6. [システムの停止]ボタンをクリックする。

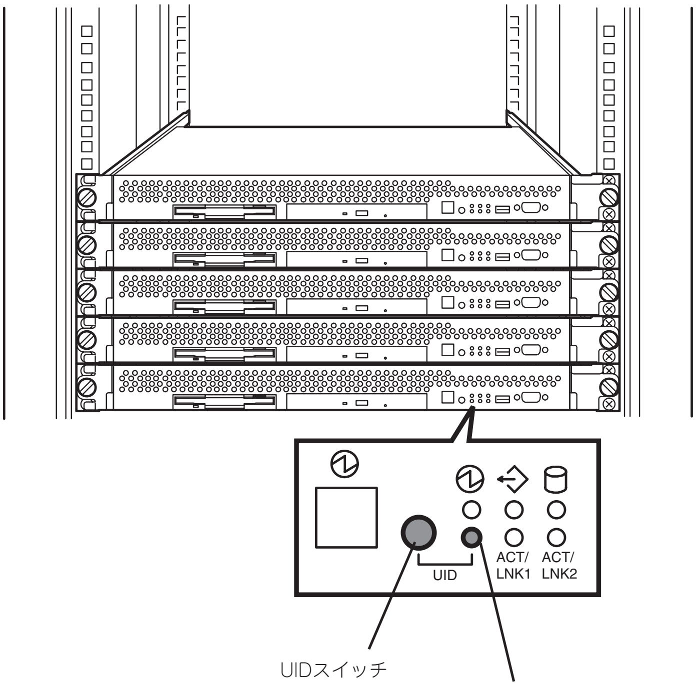
   しばらくすると本体の電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。



7. 周辺機器の電源をOFFにする。

UIDスイッチ　～サーバの確認～

複数の装置を1つのラックに搭載している場合、保守をしようとしている装置がどれであるかを見分けるために本体の前面および背面には「UID（ユニットID）ランプ」が設けられています。



前面にあるUID（ユニットID）スイッチを押すとUIDランプが点灯します。もう一度押すとランプは消灯します。
ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作している装置の電源やインタフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。UIDスイッチを使って保守する装置を確認してから作業をすることをお勧めします。

ヒント

本体背面にもPOWERランプがあります。通電中であるかどうかを確認することができます。

フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し（リード）・保存（ライト）を行うことのできる3.5インチフロッピーディスクドライブが搭載されています。
本装置では3.5インチの2HDフロッピーディスク（1.44Mバイト）を使用することができます。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認してください。
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。
イジェクトボタンを押すとセットしたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。

チェック

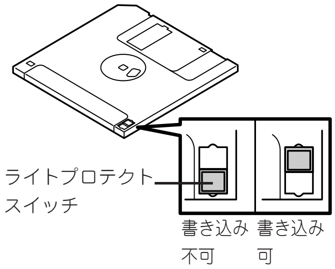
- フロッピーディスクをセットした後に本体の電源をONにしたり、再起動するとフロッピーディスクから起動します。フロッピーディスク内にシステムがないと起動できません。
- フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊されるおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクが壊れると保存されているデータが使えなくなります。次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。

- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。



- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。(本体に添付されているフロッピーディスクは必ずバックアップをとってください。)

CD-ROMドライブ

本体前面にCD-ROMドライブがあります。CD-ROMドライブはCD-ROM（読み出し専用のコンパクトディスク）のデータを読むための装置です。

⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

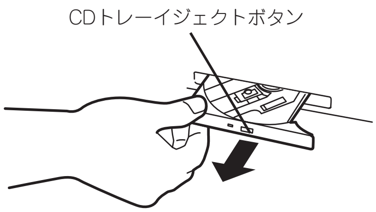
- **CD-ROMドライブのトレーを引き出したまま放置しない**

CD-ROMのセット/取り出し

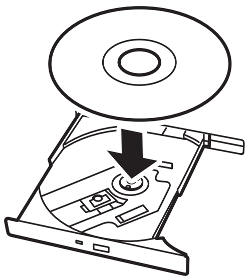
CD-ROMは次の手順でセットします。

1. CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前に本体の電源がON（POWERランプが緑色に点灯）になっていることを確認する。
2. CD-ROMドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押す。

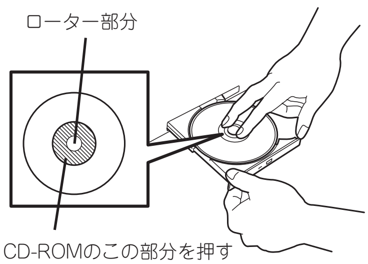
   トレーが少し出てきます。
3. トレーを軽く持って手前に引き出し、トレーが止まるまで引き出す。



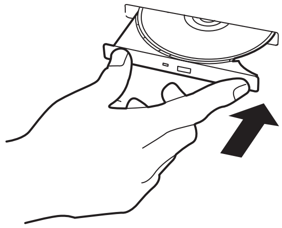
4. CD-ROMの文字が印刷されている面を上にしてトレーの上に静かに、確実に置く。



5. 右図のように片方の手でトレーを持ちながら、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分にCD-ROMの穴がはまるように指で押して、トレーにセットする。



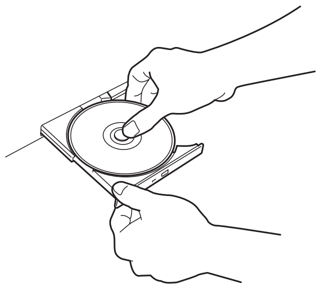
6. トレーの前面を軽く押して元に戻す。



CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと同じようにCDトレーイジェクトボタンを押してトレーを引き出します。

アクセスランプが点灯しているときはCDにアクセスしていることを示します。CDトレーイジェクトボタンを押す前にアクセスランプが点灯していないことを確認してください。

右図のように、片方の手でトレーを持ち、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分を押さえながらCD-ROMの端を軽くつまみ上げるようにしてトレーから取り出します。



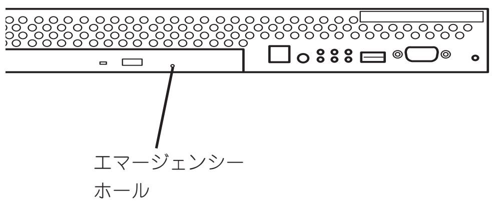
CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してください。

取り出せなくなったときの方法

CDトレーイジェクトボタンを押してもCD-ROMが取り出せない場合は、次の手順に従ってCD-ROMを取り出します。

1. POWERスイッチを押して本体の電源をOFF(POWERランプ消灯)にする。

2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる)をCD-ROM前面右側にあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。



重要

- **つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。**
- **上記の手順を行ってもCD-ROMが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。**

3. トレーを持って引き出す。
4. CD-ROMを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMを破損しないように次の点に注意して取り扱ってください。

- CD-ROMを落とさないでください。
- CD-ROMの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接CD-ROMに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

リセット

本装置が動作しなくなった場合は、次の方法でリセット、またはシャットダウンすることができます。

クライアントマシンからのリセット

16ページの電源をOFFにする手順を参考にして[Management Console]の画面が表示された後、[システム]ボタンをクリックしてください。
表示されたダイアログボックスで[システムの再起動]をクリックするとシャットダウン処理の後、システムが再起動します。



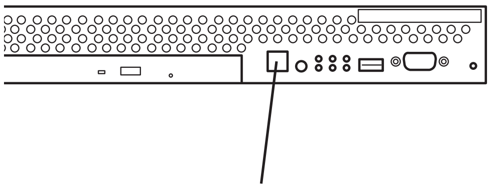
ヒント

再起動の完了は通知されません。

強制電源切断

クライアントマシンからシステムをシャットダウンできなくなったときや、POWERスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったときに使用します。

本体前面にあるPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります。（電源を再びONにするときは、電源OFF（強制電源切断）から約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。）



~Memo~